

沖縄の水・食料・エネルギー・環境 明日への対応を考える SYMPOSIUM



地球温暖化は人類の生存に関わる最重要問題となっています。
美しい沖縄の海もサンゴの白化がひろがり、不安が募ります。
地球温暖化のメカニズムや状況を正しく理解し、そのリスクを減らし、
持続可能な社会にしていくにはどうしたらよいか、
専門の研究者の講演と関係分野の代表によるディスカッションを通し、
みんなで考えてみませんか。



2008年

11/21 金 13:00~17:00

地球温暖化と“ちゅら海” (気候変化)

会場 那覇市ぶんかテンブス館 テンブスホール (那覇市牧志3-2)

主催: NPO法人沖縄県科学・技術ネットワークセンター, 財団法人沖縄県環境科学センター, NPO法人自然環境復元協会
後援: 沖縄県, 内閣府沖縄総合事務局, 環境省那覇自然環境事務所, (独)国際協力機構沖縄国際センター
琉球大学, 沖縄大学, 沖縄県技術士会, 琉球新報, 沖縄タイムス

参加無料

参加お申込は下記ホームページからお願いします。
(定員になり次第締め切らせていただきます。事前のお申込をお願いします。)

財団法人沖縄県環境科学センター Tel:098-875-1941 / URL <http://www.okikanka.or.jp/>
シンポジウム案内・申込み <http://www.okikanka.or.jp/20081121.html>

※希望者には、CPD単位登録に必要な受講証をシンポジウム終了後に発行します。

詳しくは裏面をご覧ください。▶▶

地球温暖化と“ちゅら海”

(気候変化)

地球温暖化は人類の生存に関わる最重要問題となっています。美しい沖縄の海もサンゴの白化がひろがり、不安が募ります。地球温暖化のメカニズムや状況を正しく理解し、そのリスクを減らし、持続可能な社会にしていけるにはどうしたらよいか、専門の研究者の講演と関係分野の代表によるディスカッションを通じ、みんなで考えてみませんか。

主催者挨拶

琉球大学名誉教授
NPO法人沖縄県科学・技術ネットワークセンター代表理事
木崎甲子郎

講演1

「加速する地球温暖化—低炭素革命」
(カーボン・ラッシュの時代を迎えて)

東京大学生産技術研究所教授 山本 良一

講演2

「極地の氷と海面変動」

国立極地研究所所長 藤井 理行

講演3

「サンゴ礁と地球温暖化」

琉球大学海洋自然科学科教授 山崎 秀雄

パネルディスカッション

コーディネーター

江戸川大学社会学部教授
NPO法人自然環境復興協会理事 恵 小百合

パネリスト

沖縄大学学長 桜井 国俊
東京大学生産技術研究所教授 山本 良一
国立極地研究所所長 藤井 理行
琉球大学海洋自然科学科教授 山崎 秀雄

16:50 閉会の挨拶

終了後18:00から簡単な懇親会があります。

どなたでも参加(無料)できます。

ただし定員になり次第締め切らせていただきますので、必ず事前にお申し込みください。
※希望者には、CPD単位登録に必要な受講証をシンポジウム終了後に発行します。



東京大学生産技術研究所教授

山本 良一

東京大学生産技術研究所教授 工学博士。
専門は材料科学、持続可能製品開発論、エコデザイン。学外でも、国際グリーン購入ネットワーク(IGPN)会長、通産省LCAプロジェクト運営委員長、環境報告書ネットワーク顧問、ISO/TC207/SC3 (環境ラベル) 日本国内委員会委員長を歴任し、多数の役職・アドバイザーを務める。著書に「地球を救うエコマテリアル革命」、「戦略環境経営エコデザイン」、「サステナブル・カンパニー」、「1秒の世界(責任編集)」、「気候変動+2℃(責任編集)」など多数。



国立極地研究所所長

藤井 理行

国立極地研究所所長 理学博士。
専門は雪氷気候学、地球環境学。1976年の第18次から4度8年間にわたって南極観測に携わる。その他、調査・観測のため南米パタゴニア、ネパールヒマラヤ、グリーンランド、北極など周りを回る。日本雪氷学会会長、宇宙科学評議会委員、さらにはIPCC(気候変動政府間パネル)第4次報告書WGIIリードオーサーを務める。著書には、「ヒマラヤの気候と氷河」南極の科学・氷と雪(共著)など多数。



琉球大学海洋自然科学科教授

山崎 秀雄

琉球大学理学部海洋自然科学科教授 理学博士
専門は環境生理学、環境生物学。日本植物学会九州支部長、沖縄生物学会監事ほか、日本植物生理学学会、日本植物学会、日本N学会等の評議員を務める。生物相互の共生関係の維持機構やストレス防御機構などの観点から、サンゴの白化機構の解明や生物を応用した環境修復研究に取り組んでいる。著書には「温暖化の影響と対策: 海洋生態系への影響(共著)」など多数。



沖縄大学学長・工学博士

桜井 国俊

専門は環境学、環境アセスメント、環境衛生、途上国環境問題、国際協力、環境まちづくり。南太平洋大学(在フィジー)開発研究所研究員、WHOアメリカ地域事務所環境専門官(オフィスは在ペルーでラテンアメリカカリブ海諸国全域を担当)、JICA国際協力専門員(在任中にマレーシアに長期派遣される)、東京大学客員教授などを歴任。2000年より沖縄大学人文学部国際コミュニケーション学科教授。2001年人文学部長を経て、2004年4月から沖縄大学学長。著書に「地球規模で考える健康と環境」(恒星社厚生館)、「地球文明の条件」(岩波書店)、「アジアの環境問題」(東洋経済新報社)など。



江戸川大学社会学部教授・NPO法人自然環境復興協会理事

恵 小百合

江戸川大学社会学部ライフデザイン学科教授、NPO法人荒川流域ネットワーク代表理事、NPO法人自然環境復興協会 理事、(財)政策科学研究センター主任研究員、(社)日本ナショナル・トラスト協会事務局長などのほか、国の林政審議会、国土審議会水資源部会、文化財文化景観審議会、世界遺産文化遺産選定特別委員会、自治体の環境・森林審議会、建築審査会等委員等を歴任。共著に「地球環境時代の市民・企業・そして行政」(ぎょうせい)、「アメリカのNPO」(第一書林)、「まちづくりの心」(ぎょうせい)、「森林教育のすすめ方」(全林協)、「21世紀のくまのくにづくりを考える」(TOTOU出版)など。



総合司会/琉球朝日放送アナウンサー

三上 智恵

大阪毎日放送在籍後、1995年、琉球朝日放送の開局とともに両親の住む沖縄へ移住、第一声を担当。以来、夕方ローカルワイドニュース「ステーションQ」のメインキャスターを務めながら、取材、番組制作に奔走。現在、放送の傍ら沖縄国際大学で沖縄民俗の非常勤講師を務めている。主に沖縄戦や基地問題、そしてサンゴの移植やジュゴンの文化を追いかけると海洋環境の保全と海をめぐる沖縄の文化をテーマにした番組を精力的に製作している。ギャラクシー賞報道活動部門優秀賞、日本民間放送連盟賞、国際海洋映像祭特別賞など受賞多数。

主催3団体の概要

●NPO法人沖縄県科学・技術ネットワークセンター (所在地: 沖縄県那覇市松川279番地1)
設立: 2006年10月 沖縄県認証 代表者: 木崎甲子郎(琉球大学名誉教授)
Tel.098-855-6267 E-mail: info@ostnet.or.jp URL: http://www.ostnet.or.jp/

●財団法人沖縄県環境科学センター (所在地: 沖縄県浦添市字経塚720番地)
設立: 1981年12月 代表者: 斎藤功祐
役員: 会長1名、副会長1名、専務理事1名、理事4名、監事2名、評議員: 8名

●NPO法人自然環境復興協会 (所在地: 東京都新宿区高田馬場1-3-13-301)
設立: 1989年5月前身(自然環境復興研究会)創設、2000年7月NPO法人自然環境復興協会設立・移行(内閣府認証)、2007年5月国税庁「認定特定NPO活動法人」
代表者: 杉山恵一(静岡大学名誉教授、富士常葉大学教授)
Tel.03-5272-0254 E-mail: info@narec.or.jp URL: http://www.narec.or.jp

参加無料

参加お申込は下記ホームページからお願いします。

(定員になり次第締め切らせていただきます。事前のお申込をお願いします。)

財団法人沖縄県環境科学センター Tel:098-875-1941/URL http://www.okikanka.or.jp/
シンポジウム案内・申込み http://www.okikanka.or.jp/20081121.html

会場 那覇市ぶんかテンブス館 テンブスホール (那覇市牧志3-2)

